

CENTER FOR TOURISM RESEARCH

2025年度
年次報告書



和歌山大学
国際観光学研究センター

Contents

1.	国際観光学研究センター(CTR)について	2
1.1.	ミッション	2
1.2.	ビジョン	2
1.3.	研究推進におけるキーワード	2
1.4.	目標	2
1.5.	Tourism & SDGs	2
1.6.	組織体制	3
1.6.1.	組織図	3
1.6.2.	運営機関	3
1.6.3.	CTR研究員	4
1.6.4.	CTR研究ユニット	7
1.7.	活動内容	8
1.7.1.	研究活動	8
1.7.2.	研究・教育サポート	8
1.7.3.	広報、アウトリーチ	8
2.	活動報告	9
2.1.	研究活動	9
2.1.1.	主な研究プロジェクト	9
2.1.2.	出版	20
2.1.3.	短期研究員招へい制度	24
2.1.4.	イベントの企画・運営	24
2.2.	研究・教育サポート	26
2.2.1.	研究力養成支援	26
2.2.2.	イベント開催支援	27
2.2.3.	観光学部等授業科目の開講支援	28
2.2.4.	JICA受託事業	29
2.2.5.	外部機関との連携促進	31
2.2.6.	海外研究教育機関との連携	32
2.3.	広報・アウトリーチ	33
2.3.1.	学会スポンサー参加	33
2.3.2.	イベント開催協力	33
2.3.3.	学会・イベント参加	34
2.3.4.	運営・企画イベント一覧	34

1. 国際観光学研究センター(CTR)について

1.1. ミッション

観光学研究の高度化を通じて、
健全で持続可能な社会の発展に寄与する。

1.2. ビジョン

倫理と責任ある観光発展に重きを置く、
アジア太平洋地域を牽引する研究機関を
確立する。

1.3. 研究推進におけるキーワード

- Ethics and Responsibility
- Diversity and Equity
- Community and Environment

1.4. 目標

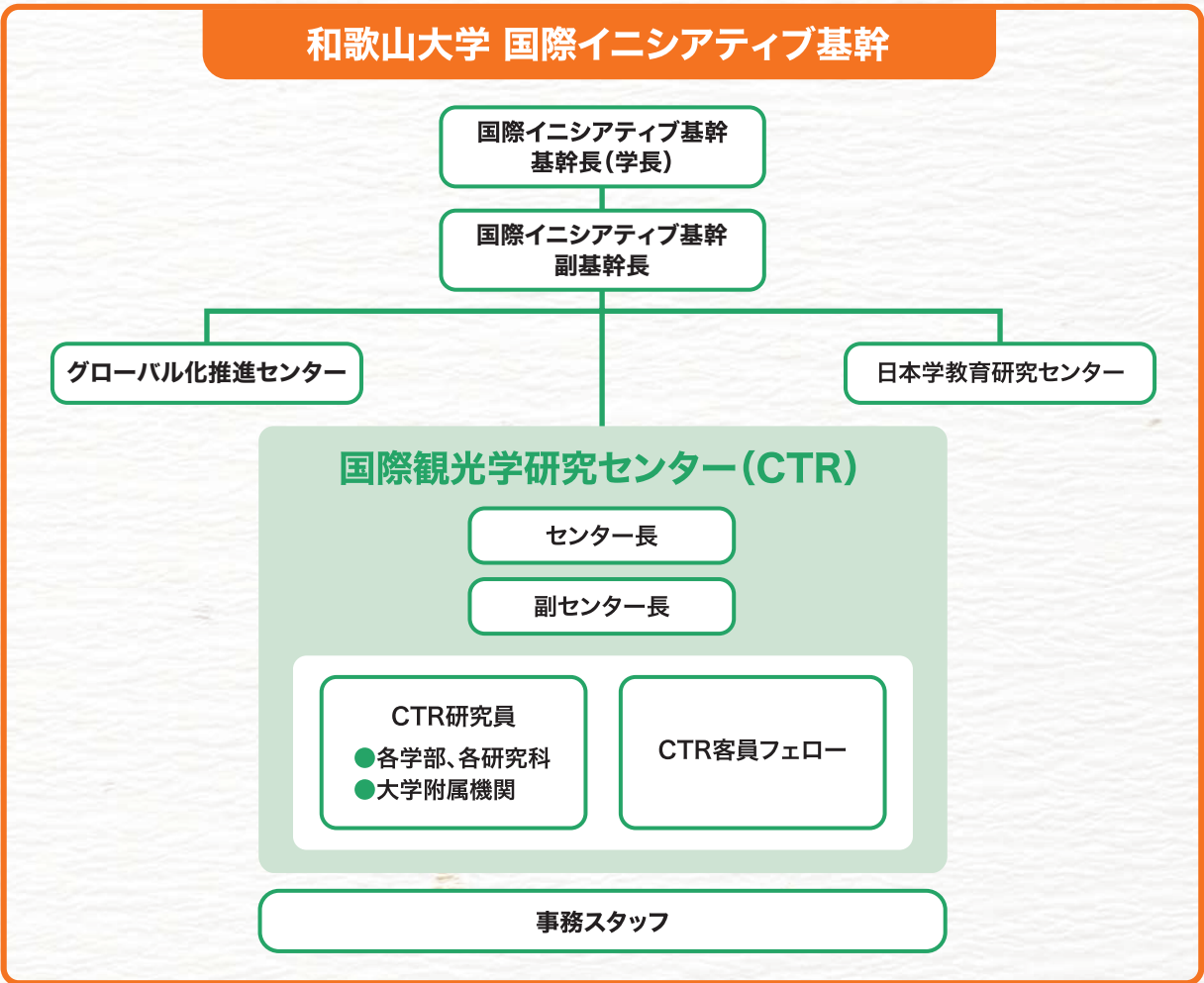
- 国内外の観光におけるステークホルダーとの連携強化
- サステナビリティを支援する研究活動を通じた、
倫理的かつ責任ある観光活動の促進
- 学内外における活発な研究文化の醸成
- 観光教育の支援
- 大学内のグローバル化に貢献

1.5. Tourism & SDGs

国連の掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」
の達成に観光を通じて貢献していく。

1.6. 組織体制

1.6.1. 組織図



2026年3月現在

1.6.2. 運営機関

国際イニシアティブ基幹 推進会議	全学のグローバル化推進を踏まえた戦略方針・ 企画の立案・管理。
CTR 運営委員会	CTR 業務の意思決定及び、事業計画の管理・評価

1.6.3. CTR研究員

CTR研究員 (計43名)	和歌山大学客員教授	4名
	CTR専任研究員	2名
	CTR併任研究員	観光学部25名、学内他学部等12名
CTR客員フェロー (計88名)	CTR名誉フェロー	2名
	CTR客員フェロー	68名
	CTR客員ジュニアフェロー	18名

研究員一覧

1.6.3.1 CTR研究員

2026年3月現在

<和歌山大学客員教授>

CHEER, Joseph M.	和歌山大学 客員教授、Professor, Western Sydney University (Australia)
MILLER, Graham	和歌山大学 客員教授、Professor, NOVA School of Business and Economics (Portugal)
RITCHIE, Brent W.	和歌山大学 客員教授、Professor, The University of Queensland (Australia)
SHARPLEY, Richard	和歌山大学 客員教授、Emeritus Professor, University of Lancashire (UK)

<CTR専任研究員>

ELBARBARY, Mohamed	国際観光学研究センター 講師
山北 隆太郎	国際観光学研究センター 助教

＜CTR併任研究員＞

CHAKRABORTY, Abhik	観光学部 准教授
DOERING, Adam	観光学部 教授
GABRAKOVA, Dennitza Stefanova	グローバル化推進センター 副センター長 教授
ZAINAL ABIDIN, Husna	観光学部 准教授
秋山 演亮	イノベーションイニシアティブ基幹 教授、学長補佐
足立 基浩	経済学部 教授、副学長
飯田 次郎	日本学教育研究センター 特任教授
上野 美咲	経済学部 准教授
遠藤 理一	観光学部 講師
大浦 由美	観光学部長、教授
香月 義之	観光学研究科（専門職学位課程）教授
加藤 久美	観光学部 教授
木川 剛志	観光学部 教授、学長補佐
岸上 光克	経済学部 教授、学長補佐、食農総合研究教育センター センター長
北村 元成	観光学部 教授
木村 ともえ	観光学研究科（専門職学位課程）准教授
佐々木 啓	観光学部 講師
佐々木 壮太郎	観光学部 教授
佐藤 祐介	教育機構 教養教育部門 講師
佐野 楓	国際観光学研究センター センター長、観光学部 教授
柴本 百合香	観光学部 特任助教
宋 多情	観光学部 特任助教
竹田 明弘	社会インフォマティクス学環 教授
竹林 明	観光学部 教授
竹林 浩志	観光学部 教授
辻本 勝久	経済学部 教授
出口 竜也	観光学部 教授
富田 晃彦	教育学部 教職大学院 教授
永瀬 節治	観光学部 准教授
鍋倉 咲希	観光学部 講師
西釜 義勝	経済学部 准教授
東 悦子	国際観光学研究センター センター長、観光学部 教授
堀田 祐三子	観光学部 教授
松田 敏幸	観光学研究科（専門職学位課程）特任教授

八島 雄士	観光学部 教授
吉田 道代	観光学部 教授
吉野 孝	システム工学部 教授

1.6.3.2 CTR客員フェロー

CTR客員フェローとは、CTR研究員の推薦をもって登録された観光学研究に携わる者であり、以下の3つの区分に分かれる。なお、CTR客員フェローのメンバーは、CTRウェブサイトに掲載している。<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/researchers/visiting-fellows.html>

CTR名誉フェロー	CTR名誉フェローは、観光学の発展・確立に向けた包括性・普遍性の高い研究課題を有し、その裏付けとなる優れた研究実績を有する研究員をいう。
CTR客員フェロー	CTR客員フェローは、国内外の大学教員または一定の研究経験を有するものとし、CTR研究員との共同研究を行うもの、CTRでの研究プロジェクトに参加するものとする。
CTR 客員ジュニアフェロー	CTR 客員ジュニアフェローは、原則として、国内外の大学院修士課程及び博士課程在籍中の学生もしくは、修士課程修了後、CTR 研究員との共同研究やCTR での研究プロジェクトへ参加するものとする。修士課程及び博士課程在籍中の学生については、在籍大学の指導教員の許可を受ける必要がある。なお、当該研究により単位を付与することはない。

1.6.4 CTR研究ユニット

CTRでは3つの研究ユニットを組織しており、共同研究や研究会等の活動は「経営 / Management」「地域 / Community」「文化・遺産 / Culture & Heritage」の各ユニットを軸に行っている。なお、CTR研究員(客員フェローを除く)はいずれかのユニットに所属し、研究プロジェクトは複数のユニットにまたがることもある。



経営 | Managementユニット

概要	観光・ホスピタリティ産業及び観光地の経営戦略、マーケティング、リスクマネジメント、イノベーションを主な研究分野とする。研究活動を通じて政策立案及び戦略の策定に貢献し、観光地及び観光・ホスピタリティ産業の持続可能な競争優位の構築を目指す。
メンバー	Niccolò Comerio、Shokhsanam Zokirjon Kizi Ibragimova、Christina Joy Kafukese、Seul Ki Lee、Ondrej Mitas、Pablo Pereira-Doel、Linh L D Pham、Brent W. Ritchie、Caroline Scarles、Aaron Tham、Hiram Ting、Aarni Tuomi、Husna Zainal Abidin、足立 基浩、伊藤 央二、上野 美咲、上原 史子、神野 真一、金 宰煜、権 純珍、間中 光、孔 慶如、寇 露、佐々木 壮太郎、佐野 楓、杉山 幹夫、蘇 哲仁、孫 昊、竹田 明弘、竹林 明、竹林 浩志、辻本 勝久、出口 竜也、永井 隼人、長野 史尚、中村 仁、夏目 千恵子、西釜 義勝、堀込 孝二、牧野 恵美、宮口 直人、八島 雄士、山北 隆太郎、山本 訓弘、李 只香

地域 | Communityユニット

概要	地域貢献型地方国立大学である和歌山大学にとって、地域社会は切り離せない観光研究の場である。地域社会や地域経済との関わりという観点から観光現象を把握し、「まちづくり」や「地域活性化」といったアプローチで観光開発に関する調査・研究を行う。
メンバー	Abhik Chakraborty、Joseph M. Cheer、Adam Doering、Dennitza Stefanova Gabrakova、Graham Miller、秋山 演亮、石川 肇、飯田 次郎、大浦 由美、小川 勝久、小川 雅則、香月 義之、岸上 光克、北林 光、小柴 恵一、斎藤 望、坂元 英俊、佐々木 啓、佐藤 祐介、宋 多情、永瀬 節治、堀田 祐三子、松田 敏幸、山岸 大二郎、吉野 孝

文化・遺産 | Culture & Heritageユニット

概要	観光現象を文化論的な観点から探求していく他、文化遺産のマネジメントや保全及び開発に関する広い課題について、クリエイティブツーリズムなどの新しいアプローチも取り入れる。歴史的・建造環境や都市、農村や農業景観、自然環境、特徴ある文化が存続する地域及び無形遺産の保全や再生なども課題とする。
メンバー	Licia Calvi、Mohamed Elbarbary、Richard Sharpley、Nurdiyana Zainal Abidin、遠藤 理一、加藤 久美、神田 孝治、木川 剛志、北村 元成、木村 ともえ、柴本 百合香、田中 光敏、富田 晃彦、鍋倉 咲希、東 悦子、森 清顕、吉田 道代

1.7. 活動内容

1.7.1. 研究活動

- 研究プロジェクト
 - ◆ 科学研究費助成事業採択研究課題
 - ◆ CTR 研究員向け共同研究支援プログラム
- 短期研究員招へい制度
- イベント企画・運営
 - ◆ 「2025 年度 CTR リサーチフォーラム」
 - ◆ 「CTR International Symposium Series 2025-2026」
- 論文集「Wakayama Tourism Review」出版

1.7.2. 研究・教育サポート

- 研究プロジェクト助成
 - ◆ CTR 研究員向け共同研究支援プログラム
- 研究力養成支援
 - ◆ 大学院生および若手研究者向けワークショップ実施
- 研究環境整備
 - ◆ 主要図書（電子ジャーナル含む）整備
 - ◆ 分析ソフトウェア（IBM SPSS, Smart PLS, Nvivo）貸出
 - ◆ 研究成果公開促進インセンティブ制度
- 研究関連情報提供
- イベント開催支援
- 観光学部授業科目の開講支援
- JICA受託事業実施
- 外部機関との連携促進
- 海外研究教育機関との連携

1.7.3. 広報・アウトリーチ

- 学会スポンサー参加
 - ◆ APTA Annual Conference 2025
- 外部機関との連携促進
 - ◆ UN Tourism 主催イベントへの参加
 - ◆ UN Tourism 活用検討会への参加
 - ◆ 「CTR International Symposium Series 2025-2026」後援

- イベント開催協力
- 学会・イベント参加(研究発表、モデレーター、オブザーバー等)
- セミナー等のイベント企画・運営

2. 活動報告

2.1. 研究活動

2.1.1. 主な研究プロジェクト

2.1.1.1. 科学研究費助成事業採択研究課題

文部科学省及び日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業に採択され、CTR 研究員が代表者として取り組む研究プロジェクトは以下のとおり。

研究種別	代表者	研究課題	研究分野
基盤研究B	Adam Doering	Critical Tourism Studies-Japan: Recentering politics and ethics in a transforming tourism landscape	観光学
	加藤 久美	リジェネラティブ論に基づくデスティネーション・ウェルビーイング評価モデル構築と実践	観光学
	八島 雄士	歩く観光による幸せの効果測定の可能性：観光サービスの統合的なアプローチ	観光学
基盤研究 C	Abhik Chakraborty	人新世における山岳地域の変化とサステナブル・アルパイン・ツーリズムの包括的分析	観光学
	大浦 由美	観光地域マネジメント推進体制における森林空間利用の進展と課題	観光学
	富田 晃彦	天文を得意としない教師の授業運営改善とその国際的応用性の研究	科学教育
	永瀬 節治	社会的企業による歴史文化資源を活かした観光まちづくりの実践プロセスに関する研究	観光学

研究種別	代表者	研究課題	研究分野
若手研究	Mohamed Elbarbary	A Comparative Study of Arab Tourists' Perception and Realization of Japan Image as A Tourist Destination	観光学
	Husna Zainal Abidin	Muslim-friendly tourism as a pathway for tourism recovery in Japan, post COVID19	観光学
	遠藤 理一	観光と東アジアの忘却—— 1965-89 年日本人男性の韓国旅行に関する観光社会学的研究	観光学
	佐々木 啓	入域料と入域規制の強化による国立公園観光客への影響	観光学
	宋 多情	世界自然遺産地域における観光利用と保全管理システムに関する研究	観光学
	鍋倉 咲希	観光の場における「ホスト/ゲスト」の流動化に関する社会学的研究	観光学
研究活動 スタート支援	山北 隆太郎	組織変革論に基づく定期開催イベントの持続可能性に関する研究	経済学、経営学 および その関連分野

2.1.1.2. CTR助成研究プロジェクト

<CTR共同研究支援プログラム>

CTR共同研究支援プログラムとは、CTRミッション「観光学研究の高度化を通じて健全で持続可能な社会の発展に寄与する」を踏まえ、優先目標（「倫理と責任ある観光発展に重きを置く、アジア太平洋地域を牽引する研究機関を確立する」）を考慮した研究プロジェクトを推進し、観光学研究の高度化・国際化を図ることを目的に、研究費助成を行うものである。本プログラムはCTR内部の競争的資金の位置づけで、下記のCTRの研究重点分野のいずれか及び下記のキーワードのいずれかに貢献する内容であることを求める。

●研究の重点分野

- ①ディスティネーション・マネジメント
- ②観光教育

●研究推進にあたるキーワード

Ethics, Responsibility, Diversity, Equity, Community, Environment

【2025年度採択プロジェクト】

採択された4件のプロジェクト課題、概要および活動報告は以下の通り。

なおCTRウェブサイトにも掲載している (<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/projects/ctrjrsupport/2025/index.html>)。

プロジェクト課題

グローバル都市におけるオーバーツーリズム問題への
取り組み：代替観光商品としてのストリートアート

●プロジェクトメンバー（＊は代表者）

Mohamed Elbarbary＊、Licia Calvi、Ondrej Mitas

●概要

本研究は、オランダ・ブレダの「ブラインド・ウォールズ・ギャラリー」と大阪の「ヨドカベ壁画プロジェクト」を調査することで、世界のオーバーツーリズム問題を解決するオルタナティブな観光商品としてのストリートアートを検討することを目的とする。本研究では、ブレダと大阪の郊外公共空間におけるオルタナティブな観光商品としてのストリートアートの推進に対する公的関係者、ストリートアーティスト、地域住民、訪問者の認識と意図を、質問紙調査と半構造化インタビューを用いて検証する。本研究は、オーバーツーリズムの結果、郊外の公共空間における既存の観光商品を広げることによって観光客を再分配することができる代替的な観光形態が必要であることを示唆する。

世界の多くの都市では、ストリートアート（壁画など）は創造的な代替観光商品として推進されており、公共空間の美化、観光客の誘致、都市のブランド化に重要な役割を果たしている。しかし日本では、ストリートアートの種類（壁画など）とインフォーマルなグラフィティ（タグや投げ捨てなど）に対する誤解があり、しばしば社会的な論争を引き起こし、創造的なストリートアートプロジェクトに対する公的な支援を抑制している。研究の実証的知見は「ストリートアートの目的地」のような代替観光商品の場づくりを通して、オーバーツーリズム問題に取り組むストリートアートの意義を解明することが期待される。

●活動報告

本研究プロジェクトでは、ブレダ市および大阪市において相当量のデータが収集された。ブレダでは、来訪者からの200件以上の質問紙調査に加え、地域住民、ストリートアーティスト、およびブラインド・ウォールズ・ギャラリーのディレクターを対象とした目的抽出による半構造化インタビューを15件実施した。さらに、観察データおよび市内各所の壁画に関する400点以上の写真資料を収集した。

大阪では、地域住民、アーティスト（淀壁プロジェクトの創設者を含む）、および大阪における壁画プロジェクトを運営するウォールシェア協会のディレクターを対象に、10件のインタビューを実施した。また、市内各所の壁画に関する160点以上の写真を撮影した。ブラインド・ウォールズ・ギャラリーの事例に関するデータ収集および分析はすでに完了しており、研究チームは今後、大阪における壁画プロジェクトへと研究を拡張する予定である。

本研究プロジェクトの成果は、以下の通り公表されている。

- ・2025年11月17日：CTR 2025 Research Forumにおいて、研究代表者エルバルバリ講師により研究成果を発表。
- ・2026年3月25日：オランダ・ブレダ応用科学大学のExperience Lab Seminarにおいて、共同研究者Ondrej Mitas氏により研究成果を発表。

プロジェクト課題

観光教育におけるデジタル没入型技術の活用に関する 探索的研究

●プロジェクトメンバー（＊は代表者）

大浦 由美＊、Husna Zainal Abidin、柴本 百合香

●概要

没入型技術が進化し続ける中で、高等教育は若い世代の学習スタイルの変化に適応する必要があります。観光教育において、没入型体験は学生の関与を高め、理解を深める可能性を示しています。しかし、現在の研究は主にバーチャルリアリティ（VR）や拡張現実（AR）に焦点を当てており、デジタルドームシアターの活用に関する研究は限られています。デジタルドームシアターは、感覚的な学習環境を作り出すための強力でありながら未活用のツールです。本研究では、デジタルドームシアターを使用した没入型体験が観光教育にどのように効果的に統合できるかを探ることを目的としています。探索的かつ質的アプローチを採用し、以下の3つのフェーズで進めます：(1)没入型学習に関する関連理論と実践のレビュー；(2)ドーム技術を利用している教育機関でのフィールドワークおよびステークホルダーとのインタビュー；(3)和歌山大学のデジタルドームシアターで観光学の学生を対象としたパイロット学習セッションと、その後のフォーカスグループディスカッション。観光教育における没入型学習の可能性を広げ、カリキュラム開発に寄与する点で本研究は理論的および実践的に重要です。

●活動報告

Integration in tourism education:

- The use of digital dome theatre was integrated into a seminar session to explore its impact on student's learning experience.
- Due to the project activities, one Masters' student was interested and was keen on utilising the digital dome theatre into her learning and research. This aligns with the overall research project of exploring the different ways of utilising the digital dome to contribute in student's learning.

Conference presentation and participation:

- Zainal Abidin, H., Shibamoto, Y., and Oura, Y (2026, January 28-31). Transforming Tourism Education: How Digital Dome Theatres Can Enhance Student's Learning [Oral presentation]. 33rd ENTER Tourism Conference, Breda, Netherlands.
- Andrianasolo, R.F. and Zainal Abidin, H. (2026, January 28-31). Beyond VR and AR: Exploring the Potential of Digital Dome Theatres for Destination Marketing [Oral presentation]. 33rd ENTER Tourism Conference, Breda, Netherlands.

Publication:

- A publication for Wakayama Tourism Review is currently being drafted

Network building: Through the ENTER26 conference, the researchers could initiate new networks that were previously inaccessible. Researchers who had experience using immersive experiences in education assisting in ideas and feedback.

プロジェクト課題

責任ある観光者の養成に向けた教育旅行： 北極圏都市ロヴァニエミでの実践

●プロジェクトメンバー（＊は代表者）

柴本 百合香＊、山岸 大二郎、望月 なぎさ

●概要

観光教育は、従来、競争力のある観光人材を生み出すための手段として捉えられてきたが、近年では観光現象に関連する多様なステークホルダーとの関係において、より責任ある観光客の育成にも重要な役割を担っている（山口ら、2022）。本研究は、さまざまな形態で展開される教育旅行が、観光教育の実践にどのように取り入れられ、持続可能で責任ある観光市民の育成に貢献するのかを検討する。さらに、関係性を重視した教育アプローチ（Relational Pedagogical Approach）を活用し、観光教育の枠組みを広げて、より倫理的で思いやりのある観光実践を促すフィールドコースの可能性を探る。

まず、観光教育の意義に関する現在の議論を批判的に検討・分析し、「多元的（Pluriverse）」「主体化（Subjectification）」「価値観（Values）」「身体化（Embodiment）」の4つのキーワードに関わる哲学的議論を検討しながら、理論的枠組みを構築する。

次に、前述の枠組みを基に、フィンランド北部のロヴァニエミ市でフィールドコースを開発する。ロヴァニエミ市は近年、オーバーツーリズムの課題に直面しており、観光客数が地元人口の10倍を超えている。そのため、地域社会のニーズと観光産業の需要とのバランスを取るための貴重な洞察を得ることが期待される。コース開発にあたっては、ラップランド大学と連携し、観光業者、住民、行政関係者等、現地ステークホルダーの協力を得る。本フィールドコースは、2026年度に和歌山大学観光学部の実践プログラムとして実施予定である。

このフィールドコースを通じ、学生が関与的で配慮に満ちた観光のあり方について省察し、実践する機会を提供することを目的としている。将来の観光産業に携わる者としてだけでなく、一人の観光者としても責任ある行動を取る姿勢を育むことを目指す。

●活動報告

本研究では、観光教育における責任ある観光者の育成に関する理論的枠組みの整理を進めるとともに、国際フィールドコースの実施に向けた基盤構築を行った。特に、Critical Tourism Studies（CTS）学会において一部メンバーが私費参加のもと研究発表を行い、国際的な研究動向を踏まえた理論的深化と新たな視座の獲得に至った。

また、本助成による研究費を活用してフィンランド・ロヴァニエミにおけるフィールド調査を実施し、ラップランド大学および観光事業者、地域関係者等との連携体制を構築した。これにより、2026年9月に実施予定のフィールドコースの教育プログラム設計の具体化が進み、その骨子を確立した。

さらに、本研究を基盤として外部資金（スカンジナビア・ニッポン財団研究助成）を獲得したほか、研究成果の一部を「観光学」に紀行文（フォーラム）として投稿・掲載した。フィールド調査を通じて構築された国際ネットワークは、今後の関連研究の発展に資する重要な基盤となっている。

プロジェクト課題

観光目的地におけるガバナンス：
マネジメント、ステークホルダー・ネットワーク、
サステナビリティの新たな役割と取り組みの創意工夫

●プロジェクトメンバー（＊は代表者）

八島 雄士＊、香月 義之、西釜 義勝、Daniyel Serzhanuly、小川 雅則、永井 隼人、南條 青志

●概要

日本の観光をめぐる環境が変容している。大阪・関西万博では、持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献および Society5.0 の実現が目的の一部となっている。他方、beyond GDP や Well-being に関わる指標などが国連未来サミットを中心に議論されている。また、日本への旅行者数は、コロナ禍から回復しており、オーバーツーリズムが顕在化している。加えて、訪日旅行者ニーズに変化が見られるため、観光目的地側には、高度な対応能力が求められる。そこで、本研究は、観光目的地におけるガバナンスの視座から、マネジメント、ステークホルダー・ネットワーク、サステナビリティに着目し、観光目的地ごとに異なった結果となるのかを問いとする。具体的には、実施項目の優先順位の相違、特徴的な取り組みの裏側における創意工夫などを結果として明らかにし、問いについて考察する。実際には、関西エリアのDMO のなかで、地域連携DMO の活動に焦点をあて情報収集し、ベストプラクティスをいくつか提示する。

●活動報告

「なぜ特定の観光マネジメントのモデルが、観光目的地ごとに異なった結果となるのか」を大きな問いに設定し、A（Academic: 国内外の大学研究者、教員、大学院生等）、P（Practitioner: DMO、県庁職員、自治体関係者等の地域観光実務を担う主体）、G（Global: 海外の実務家であり、学術的視座を併せ持つ国際連携パートナーと位置付け）という3つの主体間のつながり（A-P, A-G, P-G）を意識して研究に取り組んだ。実際には、1年間の研究期間を念頭に、「特定の観光マネジメントモデルが、実務者の認識や地域固有のアイディアの違いによって、なぜ目的地ごとに異なるか」を小さな問いとして、①和歌山県内 DMO 勉強会における旅行タリフづくりの実践とグループワークを通じた現場の認識の抽出（A-P）、②国際連携パートナーと日本における DMO の構造に関する議論（A-G）を実施した。

成果として、第一に、A-P の観点では、近畿運輸局の伴走支援事業に実際に携わった DMO がプロセスや成果を発表した。結果として、DMO が SWOT 分析を実施する意味や効果などについて、参加者から意見を収集できた。また、タリフ作りのグループワークを実施した。結果として、大学院生と実務者との対話など、タリフを利用したコミュニケーションや新たなアイディアの創出の可能性を観察できた。

第二に、A-G の観点では、カザフスタンの実務者であり PhD に取り組むメンバーとの間で、日本の DMO 制度の特性について意見交換し、カザフスタンなど中央アジア諸国の観光開発にどのように影響を与える可能性があるのかを議論した。結果として、DMO の活動範囲を考慮することによって、観光地エリアの運営に関わる課題を、意思決定の主体ごとに分類することに寄与する可能性を抽出できた。

以上の成果をもとに、学会報告に向けてさらに検討を継続する。

【2024年度採択プロジェクト・成果報告】

2024年度に採択されたプロジェクト7件に関し、研究期間終了後の(1)査読付き論文への投稿・掲載、(2)学会発表、(3)その他の成果に係る報告は以下のとおり。

プロジェクト課題

レゴのシリアスプレイと GenAI を活用し、
観光分野における望ましい気候シナリオの視点を探る

●プロジェクトメンバー

Husna Zainal Abidin、Aarni Tuomi

●成果

(1) 論文投稿・掲載 Paper Submission and Publication

- Tuomi, A., & Zainal-Abidin, H. (2025). Local perspectives on preferable tourism futures: insights from Finland and Japan. *Journal of Tourism Futures*, Vol. ahead-of-print No. ahead-of-print.
- Tuomi, A., Zainal Abidin, H., Tuominen, P., & Ascencao, M. (2025). Convincingness of AI-generated Restaurant Reviews. In: Nixon, L., Tuomi, A., & O'Connor, P. (eds) *Information and Communication Technologies in Tourism 2025*. ENTER 2025. Springer Proceedings in Business and Economics. Springer, Cham. eBook ISBN 978-3-031-83705-0
- Zainal Abidin, H. & Tuomi, A (2025). Exploring preferable climate futures. *Wakayama Tourism Review*, 6.

(2) 学会発表 Conference Presentation

- Tuomi, A., & Zainal Abidin, H. (2025, February 17-19). *Using LEGO Serious Play to explore Host Perspectives on Preferable Tourism Futures* [poster presentation]. 32nd ENTER Tourism Conference, Wroclaw, Poland.
- Tuomi, A., Zainal Abidin, H., Tuominen, P., & Ascencao, M. (2025, February 17-19). *Convincingness of AI-generated Restaurant Reviews* [conference presentation]. 32nd ENTER Tourism Conference, Wroclaw, Poland.
- Zainal Abidin, H., Tuomi, A., & Ab Rahman, N.A.F.W. (2025, January 13-15). *Exploring Older Adults' Views of Future Sustainable Destination Development*. 4th ATLAS-Critical Tourism Studies Asia Pacific Conference, Hainan, China.
- Zainal Abidin, H., Rahman, A., & Tuomi, A. (2024, September 14-16). *Exploring Preferable Climate Futures for Tourism Development: A Local Host Perspective from Japan and Malaysia* [Poster presentation]. Malaysia-Japan Visionaries Conference (MJVC) 2024, Tokyo, Japan.

プロジェクト課題

観光映像の定性的定量的分析手法の確立と
“長期的”観光戦略のあり方の研究

●プロジェクトメンバー

木川 剛志、Husna Zainal Abidin、香月 義之、加藤 久美、神田 孝治、
小柴 恵一、蘇 哲仁、森 清顕

●成果

(1) 論文投稿・掲載 Paper Submission and Publication

●Kigawa, T. & Matsubara, K. (2026). The Diverse in the Roles of Tourism Films, SEAMA2025ア
ブストラクト査読、その後、国際学会における発表、現在、論文誌準備中、2025年3月1日発表

●Kigawa, T., Seo, K.W. & Zainal Abidin, H. (2025). Visitor-Oriented Urban Morphologies:
Rethinking Rural Cities under Population Decline in Japan, Space Syntax 15th International
Space Syntax Symposium, 2025年9月Abstract投稿 2025年11月Abstract, Full paper採択、2026年4
月15日可否発表、6月口頭発表、12月論文集出版予定

(3) その他 Other

●第8回日本国際観光映像祭真庭大会(2026年3月18日から20日)研究代表者木川がディレクターとして開催。国
際学会の位置づけで観光映像の在り方を議論した。

●本研究を発展させて以下の外部資金を獲得

令和7年度 和歌山地域経済研究機構調査研究事業提案書「観光映像から読み解く必要とされる都市要素——和歌
山市における都市イメージと空間の再構築」(400千円)

プロジェクト課題

地域コミュニティにおける持続可能な発展のための責任ある
観光マネジメントに関する研究—マレーシアと日本の視点から

●プロジェクトメンバー

佐野 楓、Hiram Ting

●成果

(1) 論文投稿・掲載 Paper Submission and Publication

●現在、研究論文をInternational Journal of Tourism Research、研究ノートをSustainability in
Tourism and HospitalityとJournal of Responsible Tourismへの投稿準備中。

プロジェクト課題

ピレネー山村地域と繋がる：
価値教育の手法を用いた観光実践教育プログラムの開発

●プロジェクトメンバー

柴本 百合香、吉田 道代

●成果

(1) 論文投稿・掲載 Paper Submission and Publication

- 柴本百合香(2025). ピレネー山麓における観光と暮らし ―アラゴン州ウエスカ県を訪ねて―. 観光学. 33, 57-63. (研究フォーラム掲載)
- Shibamoto, Yurika(2026). Learning Tourism as Artistic Practice. Wakayama Tourism Review, 8(掲載予定/in press, 2026 年4 月発行予定)

(2) 学会発表 Conference Presentation

- Shibamoto, Yurika(2025). Travel Writing as Knowing. SuMu Symposium – Sustainable Naturecultures and Multispecies Future. (2025年9月24 日)
- Yamagishi, Daijiro & Shibamoto, Yurika(2025). “Practical” for what? Staying within interruption for transformative learning in tourism education. Critical Tourism Studies X: Tourism As … (Criticality As …). (2025年7月3日)
- Shibamoto, Yurika(2025). Exploring Values-based Tourism Education Through an International Field Trip. 日本観光ホスピタリティ教育学会 第24 回全国大会. (2025年3月8日)

(3) その他 Other

本研究の成果を基盤として、2024年度および2025年度の2年間にわたり、和歌山大学観光学部の正規カリキュラム内科目[Global Learning Advanced]として、フィールドベースの実践型教育プログラム「スペイン・ピレネー地域における観光」を実施している。本プログラムは、研究で検討した理論的枠組みおよび教育方法を授業設計に反映し、学生の学習過程を観察・記録することを通じて、研究と教育実践の往還を図る取り組みとして位置づけられている。

プロジェクト課題

発酵食の経営人類学：地域観光との関連から

●プロジェクトメンバー

出口 竜也、米田 晶、森田 由樹子

●成果

(1) 論文投稿・掲載 Paper Submission and Publication

- 米田晶・出口竜也「発酵食の経営人類学 ～ビジネスエコシステム形成の観点から～」『観光学』, 第35号(投稿中)

(2) 学会発表 Conference Presentation

- 米田晶「小豆島における観光エコシステムの形成：発酵産業を事例として」進化経済学会観光学研究部会 第56回研究会(2026年2月20日:ZOOM)

プロジェクト課題

古くて新しい観光案内 - 吉田初三郎が描いた鳥瞰図による
観光教育と観光への誘い

●プロジェクトメンバー

東 悦子、Mohamed Elbarbary、石川 肇、山北 隆太郎

●成果

(1) 論文投稿・掲載 Paper Submission and Publication

『観光学』への再審査を受けるための修正が進められなかったため、次号の投稿予約を行い準備中である。

(2) 学会発表 Conference Presentation

2025年7月6日、観光学術学会(於:琉球大学)にて、「昭和レトロな観光パンフレット制作の試みー吉田初三郎の鳥瞰図を活用して」という題目で一般研究発表を行った。

(3) その他 Other

2024年度『昭和レトロな和歌山案内～白浜編』と題して、観光案内パンフレット(日本語版・英語版)を発行することができた。プロジェクトのメンバーが担当授業に活用し、当該パンフレットに関するアンケートを実施・検証を行った結果、教育目的の利用(過去と現在の比較や歴史的観点からの学習など)や旅の記念やお土産としての活用の有効性が見て取れた。それを受けて、2025年度、CTRで発行された英文マニュアルから「高野山」を取りあげ、留学生や研修生の高野山見学への教育利用を想定し、『昭和レトロな和歌山案内～高野山編』を発行するにいたった。引き続きアンケートを実施し、さらなる検証を行うことが出来ればと考えている。



プロジェクト課題

日本における歩く観光の研究（歩く観光 1.0）：
責任醸成、地域連携、環境配慮

●プロジェクトメンバー

八島 雄士、金 宰煜、豊島 茂、永井 隼人

●成果

(1) 論文投稿・掲載 Paper Submission and Publication

- 豊島 茂, 八島 雄士, 金 宰煜.(2026a).「運営者の視点から見たウォーキングイベントにおける価値共創の取り組みの影響:九州「助けて」オルレの参与観察」.『観光学』34. 2026年3月発行予定
- 豊島 茂, 八島 雄士, 金 宰煜.(2026b).「九州オルレにおける実践的な取り組みの展開過程—ツーリズムエリアライフサイクルを視座に—」.『余暇ツーリズム学会誌』13. 2026年3月発行予定

(2) 学会発表 Conference Presentation

- 八島 雄士, 豊島 茂, 金 宰ウク.(2024).「取り組みの創意工夫が歩く人の興味・関心に及ぼす影響—九州オルレを事例に—」. 余暇ツーリズム学会2024年度全国大会自由論題報告, 2024.09.08, 亜細亜大学.
- Jaewook Kim, Yuji Yashima, Shigeru Toyoshima. (2024). Walking tourism research in Japan (Walking tourism 1.0): Responsibility, community, environment. CTR Research Forum 2024 November 15th, 2024, Online.
- 八島雄士.(2025a).「歩く観光による幸せの効果測定の可能性に関する研究構想」. 日本観光経営学会第7回観光経営カンファレンス自由論題報告, 2025.6.21, 阪南大学本キャンパス
- 豊島 茂, 八島 雄士, 金 ジェウク.(2025a).「九州オルレにおける歩く人の関与」. 余暇ツーリズム学会2025年度九州支部会. 2025.7.12. 沖縄県男女共同参画センターでいるる.
- 豊島 茂, 八島 雄士, 金 宰ウク.(2025b).「九州オルレの展開過程と発展課題—ツーリズムエリアライフサイクルを視座に—」. 余暇ツーリズム学会2025年度全国大会自由論題報告, 2025.09.14, 東北学院大学

(3) その他 Other

- 令和7年度科学研究費助成・基盤研究(B)(一般)(25K03368),「歩く観光による幸せの効果測定の可能性:観光サービスの統合的なアプローチ」(令和10(2029)年3月まで)採択
- 八島雄士.(2025b).「歩く観光による幸せの効果測定の可能性に関する研究構想」.『第7回観光経営カンファレンス・プロシーディングス』, 44-45. 日本観光経営学会

2.1.2. 出版

2.1.2.1. 「Wakayama Tourism Review」発刊

Wakayama Tourism Review (WTR) は、CTR研究員およびCTR客員フェローらによる研究論文や調査レポート等を収録したCTR発行の全英文のジャーナルである。

年1回の発行(Vol.8)に加え、昨年度にCTRが後援として協力したカンファレンス「Rural Tourism Conference in Shirahama」に関連した特集号(Vol.7)も発行した。いずれもオンライン版を一般公開しており、CTRウェブサイトから閲覧可能。



<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/resource/publications/ctrpublication.html>

2.1.2.2. CTR研究員の主な出版業績一覧

CTR研究員の主な出版業績は以下の通り。
なお、現学内研究員の業績詳細は、本学ウェブサイト内、研究者総覧ページ(<https://researchers.center.wakayama-u.ac.jp/search?m=home&l=ja>)参照。

<研究論文>

出版年月	タイトル □ はジャーナル名／著書名、出版社名 ※は Scopus 収録ジャーナル、() 内は Scopus CiteScore 2024
	著者 * は CTR 研究員
 2025年4月	The role of destination marketing and management organizations in promoting sake tourism: A case study of Japan [Journal of Place Management and Development] ※ (3.6)
	Masanao Tachibana*, Wakayama University, Wakayama, Japan Kaede Sano*, Faculty of Tourism, Wakayama University, Wakayama, Japan
2025年4月	Project management in sport events [Routledge Encyclopedia of Sport Studies]
	Ryutaro Yamakita*, Wakayama University, Wakayama, Japan

出版年月	タイトル [] はジャーナル名／著書名、出版社名 ※は Scopus 収録ジャーナル、() 内は Scopus CiteScore 2024
	著者 * は CTR 研究員
2025年5月	大台ヶ原登山者の入山料と国立公園管理に向けた財源に関する意識 [ランドスケープ研究] 佐々木 啓* (和歌山大学観光学部, 和歌山大学国際観光学研究センター)
2025年6月	Metamorphosis in motion: Olympic ceremonies as sites of relational creativity in Japan [Asia-Pacific Journal: Japan Focus] ※ (0.9) Mariko Ikeda, Institute of Art and Design, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan Christian Morgner, Management School, The University of Sheffield, Sheffield, UK Mohamed Nour El-Barbary*, Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama, Japan
2025年7月	ネットリサーチにみるビジターセンターに対する認知・利用経験・ニーズ [環境教育] 佐々木 啓* (和歌山大学観光学部, 和歌山大学国際観光学研究センター)
2025年7月	観光客誘致において、二次交通の利便性向上は必須条件か？ [Northeast Asia Tourism Research] 香月 義之* (和歌山大学大学院観光学研究科)

出版年月	タイトル [] はジャーナル名／著書名、出版社名 ※は Scopus 収録ジャーナル、() 内は Scopus CiteScore 2024
	著者 * は CTR 研究員
2025年7月	Relationship between sense of place and local people's behavioral intentions toward the conservation of cultural heritage sites: Attitude as a mediator [Geographical Review of Japan Series B] ※ (1.9)
	Mohamed Nour El-Barbary*, Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama, Japan Mariko Ikeda, Institute of Art and Design, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan Yasufumi Uekita, Faculty of Art and Design, University of Tsukuba, Japan
2025年9月	Exploring experiences in event management under uncertainty: The four "knowns" framework [Event Management] ※(2.8)
	Ryutaro Yamakita*, Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama, Japan Milena M. Parent, Telfer School of Management and School of Human Kinetics, University of Ottawa, Ottawa, Canada
2025年9月	Awe experiences on Kumano Kodo with a kataribe [Journal of Outdoor Recreation and Tourism] ※(7.6)
	Eiji Ito*, School of Health and Sport Sciences, Chukyo University, Japan; Center for Tourism Research, Wakayama University, Japan Shintaro Kono, Faculty of Kinesiology, Sport, and Recreation, University of Alberta, Canada Kei Tanisho, Faculty of Health and Well-being, Kansai University, Japan Tsukasa Kawanishi, Department of Sports and Health Sciences, Chubu Gakuin University, Japan
2025年10月	Mega sport events as universal cultural signifiers [Handbook on Sport and Culture]
	Ryutaro Yamakita*, Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama, Japan Wenbo Guo, School of Human Kinetics, University of Ottawa, Canada Milena M. Parent, Telfer School of Management and School of Human Kinetics, University of Ottawa, Canada

出版年月	タイトル □ はジャーナル名／著書名、出版社名 ※は Scopus 収録ジャーナル、() 内は Scopus CiteScore 2024
	著者 * は CTR 研究員
2025年10月	Calorie labels on restaurant menus: What do consumers see, think, and decide? Eye-tracking and interview insights [International Journal of Hospitality Management] ※ (18.2)  Anita Eves, Surrey Hospitality and Tourism Management, Surrey Business School, University of Surrey, United Kingdom Pablo Pereira-Doel*, Surrey Hospitality and Tourism Management & Human Insight Lab, Surrey Business School, University of Surrey, United Kingdom; Centre for Tourism Research, Wakayama University, Japan Vanessa Cumper, Surrey Hospitality and Tourism Management, Surrey Business School, University of Surrey, United Kingdom
2026年2月	Mapping multilingualism: The dynamics of identity shifts in multi-ethnic tourism destinations [International Journal of Multilingualism] ※ (6.1)  Mohamed N. El-Barbary*, Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama, Japan Mariko Ikeda, Faculty of Art and Design, University of Tsukuba, Ibaraki, Japan Ahmad Mohammed, Department of Archaeology, Durham University, Durham, UK

2.1.3. 短期研究員招へい制度

短期研究員招へい制度は、本学研究者との共同論文執筆、共同研究、外部資金獲得などの可能性の高い研究者を招へいし、CTRを拠点としてさまざまな研究交流を通じて観光学研究の活性化、高度化を図ることを目的としている。2025年度はCTR研究員の推薦に基づき1名を招へいし、ワークショップ等への登壇やCTR研究員・学生との交流を持った。

●Dr. Leo Rafolt (Josip Juraj Strossmayer University of Osijek, Croatia)

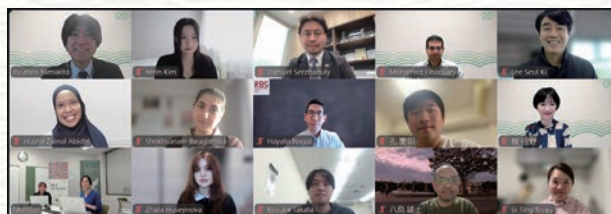
8月31日(日)～9月14日(日)に渡って来日し、CTRが実施するワークショップシリーズ2025(27ページ参照)に登壇した。滞在期間中は、日本各地の現代舞台芸術イベントを調査し、都市部と地方の両方におけるパフォーマンス・地域性・モビリティの間の相互作用を分析した。また、オシエク大学は本学の協定大学であるため、学生や教員交流など今後の連携についても協議した。さらに本年度クロアチアへ留学する本学学生への指導助言も行った。



2.1.4. イベントの企画・運営

●「2025年度CTRリサーチ・フォーラム」開催

本フォーラムは、CTRが支援助成する共同研究支援プログラムの中間報告として実施するものであり、11月17日(月)に採択課題4件の中間報告が行われた。また、本学観光学研究科博士前期課程および後期課程の学生2名による研究発表も行った。今回もオンライン開催の形式を取ることで、CTR客員フェローを含めた海外の研究者や学生が参加し、学内に留まらないオープンな場の発表となった。客員フェローであるSeul Ki Lee教授(世宗大学)も韓国から参加し、研究発表や報告に対する質疑およびコメントを残され、今後の研究活動への期待も述べられた。



●「CTR International Symposium Series 2025-2026」開催

CTRが2022年度より実施する国際シンポジウムシリーズを、11月1日(土)に和歌山市の和歌山城ホールおよびオンラインのハイブリッド形式で開催した。シリーズ第4回となる今回は、総合テーマ「責任ある観光 Responsible Tourism」を掲げ、CTRが重点分野として掲げる「観光教育」「ディステーション・マネジメント」に関する基調講演、ならびに高等教育機関および産業界の有識者による発表とパネルディスカッションが行われた。



第1部では、「観光教育と観光倫理」をテーマに、ポルトガル・ノヴァ・ビジネス&エコノミクススクールの教授であり、本学客員教授でもあるGraham Miller教授が基調講演を行った。講演では、気候変動をはじめとする環境変化の負の遺産の影響を最も受けている若者に対し、彼らが抱く社会への絶望や不安を和らげ、自然とのつながりを深めることで彼らの楽観性と可能性を育む教育の重要性について、自身の研究成果をもとに教示した。その後「UN Tourism



TedQual」を取得する中国・中山大学、ウズベキスタン・ブハラ国立大学そして本学の3大学による話題提供が行われ、各大学の観光教育プログラムや、観光倫理が教育にどのように導入されているかについて報告された。続くパネルディスカッションでは、オーバーツーリズムをはじめとする観光成長に伴う種々の課題に対し、教育が果たす役割について議論が交わされた。

第2部には「ディステーション・マネジメント」をテーマに、オーストラリア・カーティン大学のMingming Cheng教授が基調講演を行い、生成AIが観光の知をいかに再創造し得るか、また将来的に人々の観光行動をどのように変容させる可能性があるかについて、最新の研究内容に基づき論じた。その後、「観光とデジタル技術」をテーマに、観光事業の最前線で活躍する4名の実務家が登壇し、観光産業におけるデジタル技術の利活用、メタバースによる新たな観光体験の創出、さらに観光地域づくり法人(DMO)の戦略的方向性などについて話題提供が行われた。続くパネルディスカッションでは、これらの取り組みがシンポジウムの全体テーマである「責任ある観光」の実現にどのように寄与し得るかについて議論が深められ、研究者のみならず、第一線で活躍する実務家が登壇したことで、多角的な視点からの知見が共有される貴重な機会となった。



2.2. 研究・教育サポート

2.2.1. 研究力養成支援

●大学院生および若手研究者向けワークショップ実施

博士課程に在籍する学生および若手研究者向けに、観光学研究における研究手法や調査方法等について実践的な情報や知見を講義形式で提供するワークショップを実施した。主にCTR研究員が講師を担当し、全4回のワークショップシリーズを開催した。

●Session 1 「Innovation and Leadership in Tourism and Hospitality」

4月16日(水)に来学したKaye Chon教授(香港理工大学)が講師を担当。自身のライフヒストリーや象徴的な体験、革新的な実践を共有した。そしてそれらを通じ、観光・ホスピタリティ業界の組織でサーバントリーダーシップ(奉仕を通じて人々を導くリーダーシップ哲学)を発揮する重要性を示し、様々な関係者にインスピレーションを与え、ビジネスを発展させるための方向性を示唆した。



●Session 2 「Street Art in Japan: Opportunities and Challenges」

6月24日(火)にCTR専任研究員であるMohamed Elbarbary講師が担当。日本のストリートアートとその歴史について紹介するとともに、観光や教育など様々な目的でストリートアートを活用した事例についても取り上げた。



●Session 3 「Process Theorizing in Tourism Management Research」

7月22日(火)にCTR専任研究員である山北 隆太郎助教が担当。経営学におけるプロセス研究について紹介し、近年注目されるプロセス理論化について、その学術的・実践的妥当性を示しながら、観光マネジメントの文脈におけるプロセス研究の理論的貢献や、今後の発展について考察した。



●Extra Session 「Transculturalism, Mobility, and Performance Events」

9月2日(火)にCTR短期研究員招へいプログラムで来日したLeo Rafolt教授(クロアチア・オシエク大学)が担当。(トランス)カルチュラリズム、モビリティ、パフォーマンス・アートの交差点を探求し、T. Hylland Eriksenの言う“Overheated World”において、多様な形態のパフォーマンスが流動的な文化的アイデンティティの交渉と表現の場としてどのように機能するかについて考察した。



2.2.2. イベント開催支援

●ワークショップシリーズ 「CTR Writing Café」 「CTR執筆ウィーク」

CTR専任研究員の山北 隆太郎助教により、論文執筆の生産性向上を目的としたワークショップシリーズを開催した。第1クォーターには本学学生を対象とした「CTR Writing Café」を対面で実施し、続く第2クォーターには参加対象を学外にも広げた「CTR執筆ウィーク」をオンラインで開催し、アカデミックライティングに関する知識の共有と参加者の執筆習慣の定着の機会提供を行った。また、「CTR執筆ウィーク」の最終回には客員フェローの伊藤 央二教授(中京大学)をゲスト講師として招き、論文執筆に関する多様な質問に答えていただいた。



●セミナー 「Conducting Interdisciplinary Research: Potentials and Challenges」

1月30日(金)にCTR専任研究員のMohamed Elbarbary講師によるセミナー「Conducting Interdisciplinary Research: Potentials and Challenges」を開催した。学際的研究に必要な理論的基盤の構築の仕方や、文献分析の方法、研究仮説の立て方について紹介した。セミナーの後半では、研究計画のアウトライン作成について実践的なトレーニングも行い、会場に来た参加者一人一人への助言を行った。



●第8回日本国際観光映像祭

2019年よりCTR研究員の木川 剛志教授(観光学部)がディレクターを務め、CTRも共催として参加する「日本国際観光映像祭」が、3月18日(水)～20日(金・祝)に滋賀県甲賀市の碧水ホール&あいこうか市民ホールにおいて開催された。8回目を迎えた本年は、国内部門174本、国際部門1,334本の観光映像の応募があり、映像作品の表彰やART & Factory Japanのコンペティションなどの多彩なプログラムで会場より国内外へライブ配信もされた。また本年のテーマは「日本の源流へ。山と里が紡いだ文化に住む。」とし、旅や観光の価値観を改めて問いいただすとともに、地域の魅力を伝える観光映像とは何か、観光映像の力や今後のあり方についてなど、セッションにおいて議論が交わされた。



●セミナー「アラル海流域の生態環境とエコツーリズムの可能性」

3月19日(木)にCTR研究員である飯田 次郎特任教授(日本学教育研究センター)によるセミナー「アラル海流域の生態環境とエコツーリズムの可能性」を開催した。鳥取大学・乾燥地研究センター及びJSPS科研費の共同研究と共催で行ったもので、飯田研究員の共同研究メンバーも登壇した。中央アジアに位置する小アラル海地域において、「エコツーリズムを含み、持続可能な開発をどのように実現していくか」をテーマとし、ジオパーク認定に向けた経緯と展望、沿岸の水産業の生計向上、日本の支援実績、実践と研究の統合の試みなど、登壇者それぞれが多角的な知見を共有した。



2.2.3. 観光学部等授業科目の開講支援

CTR専任研究員が、観光学部及び観光学研究科の一部科目の開講を支援した。観光学部科目に関して一部はグローバル・プログラム(Global Program/GP)対象科目であり、2025年度開講科目は下記の通り。

観光学部科目名	担当者
Global Tourism	Mohamed Elbarbary
レジャー論 (t)	山北 隆太郎
Event Management	山北 隆太郎

観光学研究科科目名	担当者
観光政策・計画特論	Mohamed Elbarbary

2.2.4. 受託事業「JICA課題別研修」実施

独立行政法人国際協力機構(JICA)は、開発途上国の国づくりの中核となる人材を育成する目的で、各国政府の要請に基づき、毎年およそ150か国から1万人を超える行政官や技術者などを、技術研修員として受け入れている(参照：<https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/activities/kenshu/index.html>)。

CTRでは、2025年度に「課題別研修」および「国別研修」の2件の研修事業をJICA関西より受託・実施した。

◇課題別研修「中央アジア地域広域観光開発政策」

本研修は、中央アジア5カ国(カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン)における広域観光開発を進めていく体制づくりを目的とし、各国より行政や民間の観光従事者、高等教育機関の実務者が研修員として参加し、日本の観光に関する取り組みや日本版DMOの仕組み、高野町や熊野古道における観光誘致戦略、文化・歴史遺産の管理保全、財政資源や地域間連携に焦点を当てた講義やフィールドワーク、グループワークを実施するものである。

3年目となる2025年度は、8月21日から4日間の遠隔研修(オンライン研修)に続き、9月10日～9月30日の現地研修(来日研修)を実施した。現地研修では、観光庁やUN Tourismアジア太平洋地域事務所、近畿運輸局らによる講義に加え、田辺市熊野ツーリズムビューロー協力のもと、フィールドワークとして、高野町、田辺市熊野ツーリズムビューロー、熊野古道、白浜空港などを訪問した。



各地で観光従事者による講義を受けた他、熊野古道を実際に歩くなど、観光地経営や地域連携、DMO、保全活動について多角的に学ぶ機会となった。また、Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)で開催されたツーリズムEXPOジャパンにも参加し、日本や世界各国の展示ブースを訪れ、観光促進におけるブランディングやプロモーション手法を体験した。日本の旅行会社との面談やブース出展者へのインタビューも行い、中央アジアの観光に関する課題についてグループワークを通して意見交換を深めた。

講義やフィールドワークで得た知見をもとに、研修員が自国の観光における強み・弱みを分析し、最終日には各国毎にアクションプランや施策提案を発表した。今回、短期・長期の両方の視点を取り入れた提案を盛り込んだ発表となり、デジタル化やサイン表示の整備と言った研修内容を反映した施策から、地方や中央省庁が連携するためのプラットフォーム設置、ビザ手続き



の簡素化など、中央アジア5カ国全体に関わる広域的な取り組みの提案も示された。

今回の研修においても、研修員一人ひとりが責任と自覚をもって取り組み、研修員同士のつながりも一層深まったと感じる。当センターとしては、今後も中央アジア5カ国における広域観光開発の

一助となるよう、各国とのつながりを深め、過去の研修員も含めて継続的に情報交換できる体制を構築していきたいと考える。

◇国別研修「西バルカン諸国における持続可能な観光開発に係る能力強化研修」

本研修は、西バルカン6カ国(アルバニア、北マケドニア、コソボ、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、モンテネグロ)における持続可能な観光開発に向けた政策および支援策の立案に資することを目的として、同地域の観光政策および観光商品の開発に携わる国や地方の行政職員12名が参加し、日本の観光開発に関する政策や取り組み、日本版DMO や地域における観光戦略、関係者間の連携事例等について、講義やグループワーク、フィールドワークを通じて学ぶものである。



1月21日～2月5日の約3週間にわたる来日研修では、まず観光庁、近畿運輸局、大阪観光局および本学教員による講義を受講し、日本の観光政策から地域における観光地経営まで幅広く学んだ。その後、田辺市熊野ツーリズムビューローをはじめとする和歌山県内のDMO、世界遺産である熊野古道、白浜町、宇治市など、関西圏でのフィールドワークを実施した。地域の観光戦略や観光産業、関係者との連携体制、観光インフラについて実務者から直接話を聞くことで、講義で学んだ内容への理解を深めた。また、田辺市熊野ツーリズムビューロー所属の外国人ガイド



による熊野古道案内では、日本の歴史や神仏信仰、伝統文化への理解を深めるとともに、観光商品開発に関する新たな視点を獲得の機会となった。さらに、京都市や大阪市など大都市圏での視察では、オーバーツーリズムの現状を体感し、観光地整備の必要性や地域住民との関係構築など、多くの示唆を得た。

最終週には、講義およびフィールドワークで得た知見を踏まえ、各国における観光振興を推進する施策案が発表された。発表では、帰国後の短期目標および長期目標とともに具体的な取り組み内容が示され、ステークホルダー間の連携や協力、データに基づく戦略構築、観光地整備、体験型観光商品の開発など、各国が抱える課題に対応する多様な提案がなされた。

2.2.5. 外部機関との連携促進

●UN Tourism本部およびUN Tourism Academy訪問

6月16日(月)に、アンドラ公国の世界観光機関 (UN Tourism) の教育部門であるUN Tourism Academyを訪問し、ディレクターであるOmar Valdez氏をはじめとするスタッフ4名と面会した。当機関が実施する認証制度「TedQual (Tourism Education Quality)」は本学観光学部が2017年より認証を受けており、世界のTedQual認証大学におけるGCETの活用事例などについて討議を行った。



また、6月18日(水)にはスペイン・マドリードのUN Tourism本部を訪れ、国際観光部長であるBeka Jakeli氏をはじめ、インターンシップ生2名を含めたスタッフ6名と面会し、共同研究やUN Tourismインターンシッププログラムへの参加など、さらなる協力と連携の可能性に協議を行った。

●UN Tourismイベントへの学生派遣

4月28日(月)および29日(火・祝)に大阪・関西万博2025会場内にて行われたUN Tourism主催イベント「UN Tourism at Japan Expo 2025: Empowering Innovation, Investment, and Inclusion」へ、本学学生ボランティアの派遣に協力した。両日のイベントでは、女性経営者や起業家による観光分野における課題取り組みの事例や、持続可能な観光への投資促進などの講演やディスカッションが行われた。全学公募の結果、観光学部・経済学部の学生5名が運営ボランティアとして参加し、登壇者のアテンドや会場受付・設営補助等、会場運営の支援にあたり、終了後はUN Tourism本部より感謝状が贈られた。

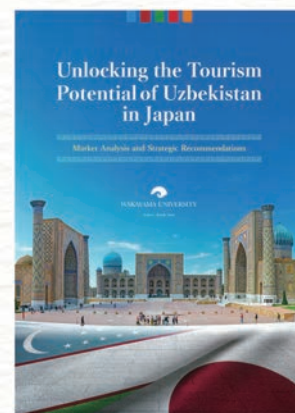


2.2.6. 海外研究教育機関との連携

●シルクロード国際観光文化遺産大学との共同研究

CTRでは、本学協定校であるシルクロード国際観光文化遺産大学の学長であるAziz Abdukhakimov氏からの依頼を受け、共同研究「日本人観光客のウズベキスタンに対する認識に関する研究」を実施した(実施期間:2024年8月20日~2025年7月31日)。

CTRセンター長である佐野楓教授を中心に、日本人のウズベキスタンに対するイメージや観光意識調査を実施した。調査では、一般消費者へのアンケートデータ分析に加え、日本の旅行会社へのインタビュー調査を実施したほか、日本人が持つウズベキスタンのイメージ、日本からウズベキスタンへの観光ツアー開発における可能性や課題についても聞き取りを行った。これらの調査結果は冊子に報告書としてまとめられ、シルクロード国際観光文化遺産大学に共有された。本データが活用されることで、今後、ウズベキスタンの観光産業の更なる発展と、日本ーウズベキスタン両国間の観光交流がより促進されることが期待される。



●エジプトの教育研究機関との連携支援

CTR主導のもと、アフリカ・エジプト日本科学技術大学Egypt-Japan University of Science and Technologyと本学との大学間交流協定が締結され、2026年2月に調印式が執り行われた。専任研究員であるMohamed Elbarbary講師が学術的な交流を続けている中での締結となり、エジプト文化や文化遺産に関する研究での交流が期待されるほか、当該大学はエジプト国内でも国際的な理工系大学でもあることから、観光遺産分野にとどまらず、工学、ビジネス分野など多様な分野での交流が一層進展することが期待される。



2.3. 広報・アウトリーチ

2.3.1. 学会スポンサー参加

●APTA Annual Conference 2025

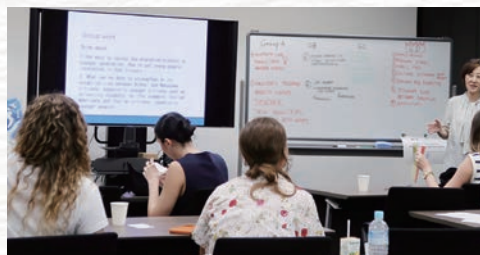
7月7日（月）から9日（水）にわたって、韓国・釜山にてAsia Pacific Tourism Association (APTA) の年次大会が開催された。APTAは1995年に創設された国際学会で、有力学術雑誌Asia Pacific Journal of Tourism Researchを発行するなど、アジア太平洋地域で最も活発な観光研究の国際学会の1つと言える。本学からはCTR研究員である佐野 楓教授、Mohamed Elbarbary講師らが参加し研究発表を行った。またCTRは2015年よりスポンサーとしてAPTAの年次大会に協賛しており、ウェブサイトや会場内バナーにロゴが掲載された。会期中にはスポンサーデスクも設置され、参加したCTR研究員が訪れた国内外の研究者に向けて本学やCTRの広報活動を行った。



2.3.2. イベント開催協力

●日本学教育研究センター実施「短期交流学生プログラム」に協力

本学日本学教育研究センター（CJS）がイタリアのカルロ・カッタネオ大学(Università Carlo Cattaneo) 向けに行った短期交流学生プログラムにおいて、CTR研究員の佐野 楓教授や東 悦子教授(ともに観光学部)らが協力した。本プログラムでは、主に日本の歴史・社会・文化について講義やフィールドワークを通して学ぶものであり、CTR研究員らは世界遺産のリスクマネジメントや観光マーケティング、VFRツーリズムなどについて講義を担当した。



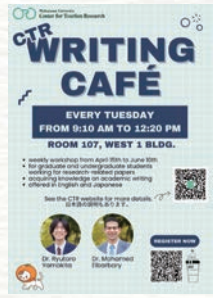
2.3.3. 学会・イベント参加

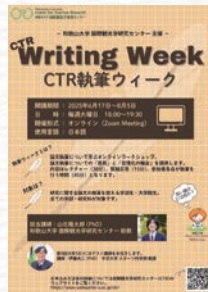
CTRスタッフが出席したイベントは以下の通り。なお、CTR研究員が研究発表等で参加した主な学会およびイベントは、CTRウェブサイト内、お知らせ記事を参照。

<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/news-category/notice/>

日程	イベント名	主催
4月28日～29日	「UN Tourism at Japan Expo 2025: Empowering Innovation, Investment, and Inclusion」参加（大阪）	UN Tourism
7月7日～9日	Asia Pacific Tourism Association Annual Conference 2025 スポンサーシップ参加（韓国・釜山）	Asia Pacific Tourism Association (APTA)
8月29日	第26回UN Tourism 活用検討会出席（東京・オンライン）	観光庁
9月26日～27日	ツーリズム EXPO ジャパン参加（愛知）	公益社団法人 日本観光振興協会、一般社団法人 日本旅行業協会（JATA）、日本政府観光局（JNTO）

2.3.4. 運営・企画イベント一覧

開催日	イベント名称 / 講師等	ポスター
4/15(火)～ 6/10(火) 全8回	CTR Writing Café スピーカー： ・山北 隆太郎(和歌山大学国際観光学研究センター 助教) ・Mohamed Elbarbary(和歌山大学国際観光学研究センター 講師)	
4/16(水)	CTR workshop series for students and young researchers 2025 Session 1 「Innovation and Leadership in Tourism and Hospitality」 スピーカー： ・Kaye Chon(香港理工大学 教授) モデレーター： ・山北 隆太郎(和歌山大学国際観光学研究センター 助教)	

開催日	イベント名称 / 講師等	ポスター
6/17(火)～ 8/5(火) 全8回	CTR執筆ウィーク スピーカー： ・山北 隆太郎(和歌山大学国際観光学研究センター 助教) ・伊藤 央二(中京大学スポーツ科学部 教授/和歌山大学国際観光学研究センター 客員フェロー)	
6/24(火)	CTR workshop series for students and young researchers 2025 Session 2 「Street Art in Japan: Opportunities and Challenges」 スピーカー： ・Mohamed Elbarbary(和歌山大学国際観光学研究センター 講師) モデレーター： ・Husna Zainal Abidin(和歌山大学観光学部 准教授)	
7/22(火)	CTR workshop series for students and young researchers 2025 Session 3 「Process Theorizing in Tourism Management Research」 スピーカー： ・山北 隆太郎(和歌山大学国際観光学研究センター 助教) モデレーター： ・佐野 楓(和歌山大学国際観光学研究センター センター長/観光学部 教授)	
9/2(火)	CTR workshop series for students and young researchers 2025 Extra Session 「Transculturalism, Mobility, and Performance Events」 スピーカー： ・Leo Rafolt(オシエク大学 教授) モデレーター： ・吉田 道代(和歌山大学観光学部 教授)	

開催日	イベント名称 / 講師等	ポスター
11/1(土)	CTR国際シンポジウムシリーズ2025-2026 「責任ある観光」 基調講演: ・Graham Miller(ポルトガル・ノヴァ・ビジネス&エコノミックススクール 教授/和歌山大学 客員教授) ・Mingming Cheng(オーストラリア・カーティン大学 教授) 話題提供者: ・Abror Juraev(ウズベキスタン・ブハラ国立大学 副学長、准教授) ・Honggang Xu(中国・中山大學 教授) ・佐々木 壮太郎(和歌山大学観光学部 教授) ・片桐 芳彦(株式会社あしびかんぱにー 代表取締役社長) ・塩見 正成(公益財団法人大阪観光局 観光事業部長) ・持丸 正明(国立研究開発法人産業技術総合研究所 フェロー) ・山本 紗希(合同会社フォーシスターズ 代表) モデレーター: ・佐野 楓(和歌山大学国際観光学研究センター センター長/観光学部 教授) ・東 悦子(和歌山大学国際観光学研究センター 副センター長/観光学部 教授) コメンテーター: ・Seul Ki Lee(韓国・世宗大学 教授)	
11/17(月)	2025年度 CTRリサーチ・フォーラム 登壇者: ・柴本 百合香(和歌山大学観光学部 特任助教) ・大浦 由美(和歌山大学観光学部長/教授) ・Husna Zainal Abidin(和歌山大学観光学部 准教授) ・八島 雄士(和歌山大学観光学部 教授) ・永井 隼人(立命館大学大学院経営管理研究科 准教授) ・Danyel Serzhanuly(Vice-Chairman, Kazakh Tourism National Company/和歌山大学国際観光学研究センター 客員フェロー) ・Mohamed Elbarbary(和歌山大学国際観光学研究センター 講師) モデレーター: ・Mohamed Elbarbary(和歌山大学国際観光学研究センター 講師) ・山北 隆太郎(和歌山大学国際観光学研究センター 助教) コメンテーター: ・Seul Ki Lee(韓国・世宗大学 教授)	

開催日	イベント名称 / 講師等	ポスター
1/30(金)	CTR seminar 「Conducting Interdisciplinary Research: Potentials and Challenges」 スピーカー: Mohamed Elbarbary(和歌山大学国際観光学研究センター 講師) モデレーター: Nicholas Bradford(和歌山大学 非常勤講師)	
3/18(水)～ 20(金)	「第8回 日本国際観光映像祭」 スピーカー: ・木川 剛志(日本国際観光映像祭総合ディレクター/和歌山大学観光学部 教授) ・加嶋 章博(日本国際観光映像祭日本部門審査委員長) ・Kyung Wook Seo(日本国際観光映像祭国際部門審査委員長/ Associate Professor, Northumbria university, UK) ・小山 剛(第8回日本国際観光映像祭実行委員長)	
3/19(木)	CTR seminar 「アラル海流域の生態環境とエコツーリズムの可能性」 スピーカー: ・地田 徹朗(名古屋外国語大学 准教授) ・Targalbay Konysbaev(カザフスタン共和国動物学研究所 研究員) ・飯田 次郎(和歌山大学日本学教育研究センター 特任教授/CTR研究員) ・倉石 東那(東京大学大学院総合文化研究科・博士課程) モデレーター: ・飯田 次郎(和歌山大学日本学教育研究センター 特任教授/CTR研究員)	

CENTER FOR TOURISM RESEARCH

【発行】和歌山大学国際観光学研究センター

〒640-8510 和歌山市栄谷930

TEL.073-457-7025

<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>

【発行日】2026年9月



Wakayama University
Center for Tourism Research

2025年度 年次報告書
和歌山大学 国際観光学研究センター